

7月6日衆参選挙と同時に

また、外務官俵脛三十七年の高島益郎判事は元陸軍主計少尉で、終戦後はシベリアで二年間の抑留生活を送りました。首相ブレインの一人、瀬島龍三・行革審委員と似たような経歴を持ち、駐ソ大使も務めました。が、強烈な反ソ主義者、タカ派外交官として有名でした。

こうした中曾相色の濃い最高裁判事の布陣は、同時に司法反動化の推進役でもあります。矢口長官は裁判官としてよりも、最高裁事

共同風呂女談話室

武松輝男

納屋、いまで言う杜宅に図書室があった。どつという書物が置かれていたのだらうか。いわゆる講談 講談本だからといってはいけない。

本が主なものであったらしい。らしいといふのは、その他にも精神訓話に準ずるむづかしい書物もあつたであつたらしい。

つたという。ただ、総務に關する利益とか擄取とか、勞務政策の根源にかかわるものももちろん置いてなかつたといふことであつた。

当時、書物を読む者は、物事の善悪を理屈で判断できる要素をもっていることで、三池炭鉱の労務業務の様にわかってもらえよう。

図書室は娯楽所の一室が当てら

14回最高裁裁判官国民審査
権無視の
こ×印を

**中韓根内閣が
任命した10人の
審査対象候補判官**

**(最高裁長官)
矢口 洪一**
東京小浜区(65歳)
元自民党議員、本
任裁判官、法務省
官歴17年

● 候補者として初めて審査対象となり
● 審査員 大谷友司(最高裁事務局長)と
● 審査員 大谷友司(最高裁事務局長)と

藤島 昭
東京小浜区(65歳)
元自民党議員、本
任裁判官、法務省
官歴17年

香川 保一
東京小浜区(65歳)
元自民党議員、本
任裁判官、法務省
官歴17年

高島 益郎
東京小浜区(65歳)
元自民党議員、本
任裁判官、法務省
官歴17年

林 隆之輔
東京小浜区(65歳)
元自民党議員、本
任裁判官、法務省
官歴17年

佐藤 哲郎
東京小浜区(65歳)
元自民党議員、本
任裁判官、法務省
官歴17年

坂上 角夫
東京小浜区(65歳)
元自民党議員、本
任裁判官、法務省
官歴17年

島谷 六郎
東京小浜区(65歳)
元自民党議員、本
任裁判官、法務省
官歴17年

大内 恒夫
東京小浜区(65歳)
元自民党議員、本
任裁判官、法務省
官歴17年

坂島 敦
東京小浜区(65歳)
元自民党議員、本
任裁判官、法務省
官歴17年

しかし、国家権力に対しては「謙抑的」でも、その権力の横暴とたたかう国民の権利主張には敵意むき出し。東京高裁の「教科書検定は合憲」という家永教科書第一次訴訟の控訴審判決（3月19日）、中曽根自民党政治に、司法・裁判の面でも「ノー」をはっきりいうために、最高裁判事の国民審査では、罷任を迫る「×」を活用しよう。

杉本一男

美味しくて安い。これが中国料理——といっても、私たちは招待されているわけで、移動するたびにその土地の名物料理をちそうになる。

資本主義は「過剰の経済」で社会主義は「不足の経済」であるともいわれるが、金さえ出せばなんでも手に入り、食べ過ぎるほど食べている現実もある。

体の調子さえ良ければ言うことにはないのだが、後半は歯痛で思うようには食べられなかった。が、ちよつと心残りだった。北京では、当然のことのように北京ダックで招宴となつたが、因用種として有名なこのアヒルもつとも、そのために「働きバチ」になっていることを考えると、なんとなく「北京ダック」が身につまされてくる。さて、そのお値段がフルコースでも日本のラーメン定食ぐらいのものか。そんなに安くても、中国人



天安門広場の東側にある、北京いや中国を代表する超一流ホテルの「北京飯店」。前を通っただけだったが、車の中からパチリ。

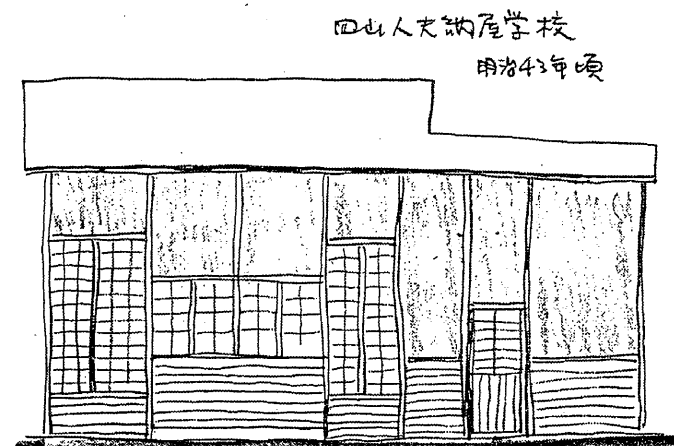
れていた。なかには談話室の中に図書棚が設けられているところもあった。

談話室と言へば、そういう名称で一室が造られている場所があった。共同風呂場の二階である。この炎舌室は男風呂ではない。女風

女性の話し好きのためのものとして、あまりにも単純すぎて、呂だけである。

三池炭鉱のねじり曲げたような労働政策に噛み合わない。

この「風呂場女談話室」は、どこの共同風呂場にも設けられている。



四山人文納屋學校
用治43年頃

たのではなくて、ほんの一部の納屋だけである。これもまた不思議なことだ。

対策といった現世利益的配慮であつて、労働者の体力保護といったものではない。

たかどづか。このように説明すると誰もが異口同音に「まさか」という。

子供といえば、納屋には雨天用の屋根つき子供遊場があった。四畳半か六畳の狭い棟割りの部屋で、子供たちの騒ぎで友助のたわの安

眠ができれば、出勤率にひびいてくる。現在のように六疊、四疊半、三疊といった広い社宅でも

安眠所が設けられているのを見て、当時の狭い納屋では不可欠のものであったろう。これなども三池炭鉱の石炭生産拡大という出役

睡眠不足から怪我をしないようにするための方策だ、とある労働担当者は言ったが、前に述べたよ

うに、それを聞いた者は異口同音に「まさか」と言つたろう。

東側にある
ルの「北京
の中から

は、特別な飼育法で育てられる
 そうで、孵化後五十日ぐらいた
 ると暗い所に入れられ、餌を喰

制的に詰めこまれる。そして半
月、飽食で栄養を十分にとった
アヒルは、丸々と太り、あぶら

炊きにさむ食卓に出される
飽食といえばこんな話を聞いた。「日本では食糧があり余るほどあるぞうですね」と。恒常

的な供給過剰は、輸入によってもたらされているが、食べ物も国産のものが少なくなっていることへの皮肉ともとれる。